内なる平和を求めて（3/4）：人生における忍耐と目的

：

明:

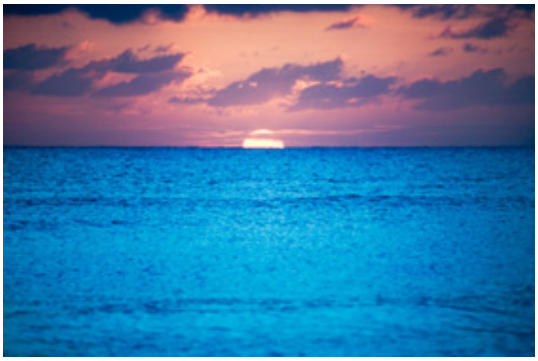
この波 万丈な世界では、人生そのものを究 の目的としないこと、そして忍耐することこそが、私たちのコントロ ルの　内の障壁にあたるものに しての有 な解 策となります。

目: 事イスラ ムによる利益真のよろこびと内面のやすらぎ

より: ビラ ル フィリップス博士（アブ　ウスマ ン氏 音の　から 写）

日01 Feb 2010

集日 06 Feb 2010



それではモ ゼとヒドルの物 に りましょう。彼らが川を渡ると一人の男 がおり、ヒドルは意 的に彼を してしまいました。モ ゼはどうしてそのようなこと出来るのか、とヒドルを いただしました。男 は何もしていないのに、ヒドルは突然彼を したのです。ヒドルによると、その子には敬虔な　がいて、もしその子が育てば　にとって手の えない存在となり、彼らは不信仰に ってしまう（ことを神はご存知である）ため、神は男 の死を命じたのだとモ ゼに 明しました。

もちろん、　は男 の死を知ると き悲しみました。しかしながら神は、彼らにとってより良い敬虔な子供を彼らへ授けられました。その子は 孝行のとても良い子でしたが、　は男を亡くしたことから常に心に穴が いたかのようでした。しかし 判の日、彼らは神の

御前に立ち、かれにより 男の命が われた理由が明らかにされ、彼らはその 全てを理解して神を称 することになるでしょう。

私たちの人生の性 とはこういったものなのです。私たちの人生には 々な出来事があります。それらの中にはマイナスに映るものや、私たちの人生における内面的平和への障壁となるようなものがあります。なぜなら私たちはそれらが起こった理由を理解しないからです。しかしそれらは へと追いやられねばなりません。

それらは神によるものであり、私たちはそういった出来事の背 にある英知に 付かなかったとしても、究 的には善いことがあるのだと信じなければなりません。それから初めて、コントロ ル出来る事柄に取りかかることが出来ます。まずそれらを特定し、次なる大きなステップとしてそれらの障壁を除去するためへの解 案を　していくのです。そのためには自分を えていくことが大きなポイントです。なぜなら神はこのように仰られているからです：

“??????????????????????????????????????”?????? 13?11?

これは私たちがコントロ ル出来る　のものです。私たちは忍耐でさえ うことが出来ますが、一般的にそれは生まれつきのものであると信じ まれています。

??“????????”????????????????

その男性は怒りやすい性格の人物であったため、 言者は彼にそういった性 を改めなければならないと告げたのです。ゆえに自分の性格や性 を えるということは可能なのです。

?????????????“??”

これはサヒ フ アル＝ブハ リ に　されています。これは、生まれつき忍耐深くはない人も、忍耐深くなることが出来ることを意味しています。

味深いことに、西洋精神医学と心理学は、私たちに　を溜め まずに 散させることを めます。なぜならもし 感情を溜め めばいずれは爆 してしまうからで、そうなるよりは 散させてしまったほうが良いと言うのです。

に、彼らは人々が全てを 散させていると、余りにも い怒りによって の小さな血管が破裂していることを　しました。彼らは全てを 散させることが　には危 で、有害な可能性もあることを突き止めたのです。それにより、今では全ての 散は控えた方が良いと彼らは主 するのです。

言者は私たちに忍耐深くあるよう告げられたため、たとえ内面では怒り心 であっても、外面では忍耐深い人物であるように振る舞うべきなのです。しかしそれは人々を欺くためではなく、忍耐を形成するための一 としてなされるべきです。私たちが一 してそうすれば、忍耐に する外的 念は内的なものとなり、上 のハディ スにあるように、 果的に忍耐が 成されることになります。そしてそれは、 成可能なことなのです。

その方法の一つとして、忍耐とその 成に し、人生の中の物 的要素がいかに大きな影 を及ぼしているかを　することが げられます。

言者はそれらの要素をどのように　するべきであるかという件に し、次のような助言をされました：

“???”

なぜなら私たちの状 がどうであろうと、私たちよりも まれない人々というのは必ず存在するものであるからです。これは物 主 的人生における一般的な 略であるべきです。昨今では物 主 が人生の重きを占めており、私たちはまるでそれに取り かれているかのようです。あたかも最 先されるべきものは、いかに多くのものを得ることが出来るかということであるかのようで、私たちの大半はそのことにエネルギ を使います。しかしもしやむを得ない 合は、自分の内面的平和に影 を与えない　でそのようにするべきでしょう。

物 主 の社会で生活するにあたり、私たちが自分たちよりも成功を めている人々に焦点を当て ける限り、自分の持っているものに 足することは してありません。 言者はこう言われています:

“??”??????????

「垣根の向こうの芝生はより青い」ということわざがあります。多くを持つ人はより多くを求めるのです。そのように追い求めているだけでは、物 主 的世界において して足感を得ることはないでしょう。むしろ、私たちは まれない人々に注意を向け、それがどんなに小さなものに えたとしても、神によって自分に授けられている祝福と慈悲を思い出すべきなのです。

物 主 的社会の中の私たちの生活において、 切な 点を定めることの一助となる言 を、 言者ムハンマドは残しています:

“??”??????????????????

ゆえに、もし 世が最大の目 とされたのであれば、彼の行 は を ばないものとなり、 を切断された のようにあちこちを狂ったように け回ることになるのです。神は彼の眼前に困をもたらすため、その者がいかにお金を所有していようが、常に自らを しいと感じるのです。そして かが彼に しかったり、微笑みかけたりするだけで、彼は人々の下心を疑うようになり、 一人信じることも出来ず、幸せでなくなるのです。

株 の市 が暴落すると、投 家が自 を みる 道を目にします。ある人が8 を持っていたとして、暴落の 果5 の 失を出し、3 が残ったとしても、彼にとってその5 の はこの世の わりのようなものなのです。神が彼の眼前に 困をもたらしたため、彼はその 生きる意 を 出さなくなります。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/636

著作　2006-2015　断　を禁じます。　2006 - 2023　IslamReligion.com.　断　を禁じます。